

岩場から船に移乗しようとしていた釣り客が乗降用タラップから落水し死亡

概要：本船は、船長(40歳)が1人で乗り組み、岩場から釣り客を收容する際、両手が塞がった状態で船に移乗しようとしていた釣り客が、バランスを崩し乗降用タラップから落水した。釣り客を船長1人で引き上げることができず、救援中に釣り客が死亡した。

本船(瀬渡船)

総トン数：4.5トン

L×B×D：10.99m×2.64m×0.93m

天気曇り、北西の風、風速約5~6m/s
波高約0.5~1.0m、上げ潮末期
海水温度約17~18℃

釣り客は、釣り用の防寒着の上下及び救命胴衣を着用し、磯靴を履いていた

釣り客は、左手に釣り竿と餌箱を持ち、右手のクーラーボックスを前方に持ちながら、少し左斜めから乗降用タラップに乗り込もうとしたとき、左側のタラップのハンドレールに左腕が当たり、体勢が崩れ落水した

船長は、船を10mほど後退させ船首方を見たところ、両腕をバタつかせて岩場にはい上がろうとしている釣り客を確認したので、念のため救命浮環を投入した



船長は、釣り客が救命浮環につかまったのを見て、溺れるおそれなくなったと思った1人で船上に引き上げることができないので、すぐ戻るからと伝えて約300m離れた磯に渡していた釣り客3人を迎えに行った

約20分後3人を乗せて現場に戻ったとき、釣り客は救命浮環に右腕を通し、顔を岩場の方に向けた状態で浮いていて、呼びかけに応じて顔を本船の方に向けたが、投げたロープをつかむことができなくなっていた

釣り客をボートフックで手繰り寄せ、本船に引き上げたときには、呼吸をしていなかった船長は、海上保安部へ通報し、心肺蘇生を施しながら近くの漁港に向かった

再発防止に向けて(事故防止策)

- ・船長は、釣り客に対して、タラップの正面から乗り込み、片手を空けハンドレールを持って安全な体勢で乗降するよう注意すること。
- ・落水した場合は、慌てて泳ごうとせず、仰向けの状態で呼吸を確保し救助を待つように注意すること。
- ・本件後、落水したときに船に上られるように着脱式の梯子を装備した。



本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。(平成26(2014)年8月29日公表)

http://www.mlit.go.jp/jtsb/ship/rep-acci/2014/MA2014-8-1_2014tk0006.pdf